

た。

選考委員会は、熊本大学大学院医学薬学研究部からは竹屋元裕教授(基礎系)、安東由喜雄教授(臨床系)、中川和子教授(薬学系)が、熊本県医師会を代表して倉津純一理事が、関連病院からは熊本赤十字病院の東大弼院長、熊本大学医学部保健学科から羽山富雄教授、センター系からはエイズ学研究センターの松下修三教授の七名で構成され、互選で竹屋元裕教授が委員長となつて選考が行われました。

医学研究助成金の応募者は、大学院医学薬学研究部から二名、医学教育部から六名、附属病院から二名、薬学部から一名、熊本保健科学大学から三名、学外医療機関一名の計一五名であり、その中から次の四名が授与候補者として選考され、神原理事長に推薦後、常任理事会を経て、理事会において承認されました。

魏 范研 大学院医学薬学研究部 分子生理学分野 助教
「CD41」遺伝子異常による二型糖尿病の発症メカニズム

楠添 豊 大学院医学教育部 博士課程四年(腎臓内科学)「アルドステロン」による腎障害におけるプラスミンの機能解明と、新規腎臓病治療薬開発への応用

異島 優 薬学部 医薬高分子学寄附講座 特任助教
「難治性虚血性疾患の治療を目指した高性能一酸化窒素運搬タンパク質の創製」

小川 幸恵 熊本保健科学大学 保健科学部
「ラット海馬CA1ニューロンにおけるシナプス内外GABA受容体への揮発性麻酔薬作用の相違」

平成二十一年度(第十三回) 外国人留学生奨学金授与

外国人留学生への支援の一つとして、平成二十一年度(第十三回)外国人留学生奨学金授与候補者の選考は、前記医学研究助成金授与候補者選考の前に行われました。

本年度は医学教育部長から四名、薬学教育部長から二名、合計六名の推薦があり、その中から次の四名が授与候補者として選考され、神原理事長に推薦後、常

任理事会を経て、理事会において承認されました。

劉 蕾 大学院医学教育部博士課程二年(中国) 生体機能薬理学分野
蔣 青 大学院医学教育部博士課程四年(中国) 発生医学研究所(腎臓発生分野)
張 三兵 大学院医学教育部博士課程四年(中国) 神経化学分野
呉 英先 大学院薬学教育部博士後期課程二年(大韓民国) 分子薬化学分野

報 平成一十一年度医学研究助成金・外国人留学生奨学金の授与式開催

平成二十一年十月十三日(火)午後五時半より医学部第一会議室において、平成二十一年度第十四回肥後医育振興会医学研究助成金及び第十三回外国人留学生奨学金の合同授与式が行われ、神原武理事長から助成金四名・奨学金三名、各件十五万円が受賞者ひとり一人に手渡されました。なお、外国人留学生奨学金については、受賞者決定後に一名が退学のため授賞が取り消されました。



本九祭・医学展を開催

第十六回本九祭実行委員長 熊本大学医学部医学科 三年 島田 秀一
この度は熊本大学医学部の学園祭「本九祭」運営のため肥後医育助成金を賜り、関係者のみなさまに深く御礼申し上げます。医学部学生一同を代表致しまして、心から感謝しております。今年十月三十一日、十一月一日に熊本大学医学部本荘キャンパスにて本九祭の開催を予定しております。十六回目を迎えます今年のテーマは「医新」です。お越しいただいた皆様に本九祭で新しい発見をして頂きたい、さらには本九祭が皆様にとって新しい視点を得るきっかけになれば、という願いが込められています。我々学生が日ごろどのような事を学んでいるのか、大学でどのような研究が行われているのかを見て、触つて感じていただけるような展示を予定しております。そして、この本九祭を機に地域の皆様にとつて熊本大学医学部が少しでも身近な存在になれば幸いです。

「薬学展」の開催

薬学展実行委員長 熊本大学薬学部薬学科 三回生 山本 修平
この度は熊本大学薬学部の薬学展運営のため肥後医育振興会助成金を賜り、関係者の皆様深く御礼申し上げます。肥後医育振興会のお力添えにより、私たちは平成二十一年十一月三日(火)に大江地区におきまして薬学部薬学展を無事開催することができました。薬学部学生一同を代表してここに報告いたしますとともに、心から感謝申し上げます。

学生の自主活動への支援

薬学展は、薬学部の近隣に住んでおられる地域の皆様をはじめ、卒業生の方々、さらにはこれから薬学を目指すとする方々に対して、現在の熊本大学薬学部の校風を体験していただき、薬学に少しでも興味を持っていただくために、毎年開催しています。今回の薬学展では実際に薬草園で薬草に触れ合うことで自然や生薬の素晴らしさを体験していただく企画や、その生薬で作った薬膳料理を薬学展に来ていただいた皆様に味わっていただく企画をはじめとて様々な企画を行いました。また本年から薬学部には実習薬局が設立され、そこでは高校生を対象とした薬剤師体験を催しました。これらの企画は学生主体のもので皆様の協力により円滑に運営することができました。

今回の薬学展を通して多くの方々から熊本大学薬学部と薬学についてより深いご理解とご支援を受けたと感じております。また、運営にあたって学生が切磋琢磨し、向上心と愛校心を培うことができました。このような薬学展を開催できたのも偏に薬学部を支援してくださる皆様のおかげだということを常に心に留め、これからもいっそう薬学部と医療全体の活性化のために学部生一同一丸となって邁進していきたいと思っております。また、地域と医療の架け橋となるべく、これからも薬学展を通して地域の皆様にも少しでも薬学部を知っていただけるようにがんばりたいと思っております。

最後に、肥後医育振興会と熊本の医療の益々の発展を祈念してご報告とさせていただきます。この度は誠に有難うございました。

編集後記

肥後医育ニューズレター14号をお届けします。例年通り盛りだくさんな内容になり、活字が小さくなつてしまいました。振興会の活動内容を余すところなくお伝えしております。ところから、ご容赦いただきたいと思います。肥後医育振興会が取り組んでおります、地域社会のニーズに応え、社会に貢献する医療人の育成、すなわち「医育」の活動記録として本ニューズレターの編集にご協力いただいた各先生方に感謝いたします。今後とも温かいご支援をよろしく願いたします。

常任理事(広報担当) 松下 修三